



エッセイ

東海林のり子「私はライブ大好きです」

Illustration / Asuka Kitahara

40代半ばから、60代にかけて、ワイドショーのリポーターとして、全国を駆け回っていました。「金属バット両親殺害事件」、「豊田商事会長刺殺事件」、「埼玉連続幼女誘拐事件」、「日航ジャンボ機墜落事故」など、発生した事件現場からは必ずといっていいほど、生の現場レポートがあります。事件の概要、現場の詳細な報告、近隣のインタビュー、それを短く短時間にまとめてオンエアしなければならず、極度の緊張感の中での作業。しかし不思議なことに録画取材の時よりもレポートとカメラマンの息がぴったり合い生放送の醍醐味を感じる事が出来るのです。

今現在を伝える高揚感なのかも知れません。それと同じ様な感覚を、舞台やステージの観客側にまわった時にも味わう事が出来ると知りました。仕事などで疲れた時、劇場に足を運ぶ、ライブ会場で若者と一緒に手を振りあげる、やがてパワーが満ちてくるのを感じるのです。演じる俳優さん達のエネルギーや、楽しませてあげようとする

ミュージシャンの熱さが伝わってくるのです。今を共有出来ているという喜びなのかも知れません。「舞台は一生もの」という言葉通りなのでしょう。

20年程前、「午後の遺言状」という撮影現場で、あの女優、杉村春子さんにお話をうかがった事があります。『女の一生』も間もなく1000回をむかえるけれど、毎回芝居が同じなんて事は絶対あり得ないの。1回づつ違う。お客様も毎回違えば、反応も違う。その日の役者さんの状態もさまざま。だからあきらめず続けることが出来るのよ。今日はどんな風に演じようかと考えるとワクワクするのよ!!と。舞台は生き物なんだ、そしてそれが舞台の魅力なんだと納得しました。また素敵な芝居を見つけて行ってみましょう。そして、明日はロックフェス。元気をもらってきます。

1934年さいたま市生まれ。立教大学卒業後、ニッポン放送に入社。13年間のアナウンサー生活のち、フリーとなり、「3時のあなた」、「おはよう! ナイスデイ」のリポーター。ロックバンド「X」のレポートで若者の支持を得る。現在はテレビ、携帯サイト、講演活動を行っている。

NEWS

チラシアプリ『チラシステージ』

全国の舞台公演のチラシを集めた無料アプリが登場!ジャンル、地域、公演日での絞り込みやキャストなどキーワードで検索できます。公演スケジュールや会場アクセスもワンタップで見やすく、ブックマーク機能も。(株式会社イープラス) <http://eplus.jp/cst>



気軽に当日券『Tickets Today』

舞台公演の当日～数日前のチケットを買える『Tickets Today』が、渋谷(109・2階)と銀座(銀座ファイブ・1階)にオープン。対面販売なので、外国人観光客やインターネットが苦手な方も、店頭で公演情報を確認して買うことができます。(ロングランプランニング株式会社/店舗営業時間 10:00-20:00) <http://ticketstoday.jp>



PRESENT



上野鈴木演芸場 9月下席 昼の部 寄席鑑賞券 ペア2組

三遊亭金馬師匠が登場する9月21日～30日の寄席鑑賞券。いろんな噺家さんの落語のほか、漫才や紙切り(色物)も楽しめるのは寄席ならではの。



加藤武追悼公演『すててこてこてこ』 鑑賞券 2名様

老舗劇団文学座が可見市文化創造センターとタッグを組み、多彩な出演者を迎えて臨む巡回公演。吉祥寺シアターでの10月13日(火)、15日(木)19:00の公演を各1名様に。

[プレゼント応募方法] SANZUIウェブサイト (<http://www.cpra.jp/sanzui>) からご応募いただくか、はがきに①ご希望のプレゼント②氏名③年齢④性別⑤住所⑥電話番号またはメールアドレス⑦SANZUI入手場所⑧誌面の感想を書いて「〒163-1466 新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー11階 芸団協広報課」までお送りください。【締切】④9/15(火) ⑤10/6(火)(必着)
*当選の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。



編集後記

SANZUIがスタートして3年目、編集に携わる中でいろんな出来事があります。本紙の取材後に、加藤武さんの訃報を受けました。お話をうかがって、秋の公演が楽しみだっただけに、とても残念なお知らせでしたが、関係者のご理解もあって故人の舞台への思いを収めることができ、感謝しています。取材は、インタビューと写真撮影の二本柱。今回は主に芸能花伝舎で行いました。建物の改修で壁だったところがガラス張りになり、自然光での撮影も可能になったので、背景を立てるボールとロール紙を用意して。プロの手にかかれば、ちょっとした空間も「どこで撮影したの?」と驚くばかりです。SANZUIをアートとして楽しんでいる読者の方も多いかと思いますが、実演芸術の魅力を伝える素敵な紙面がつけられるよう、これからも精一杯サポートしていきます。(大)

【お詫びと訂正】前号「SANZUI vol.07_2015 spring」の本文中に誤りがありました。正しくは以下の通りです。

19ページ 「ひとことください」クレジット(正)Text / Taisuke Shimanuki
読者および関係者のみなさまにご迷惑をお掛けしましたこととお詫びするとともに、ここに訂正いたします。※ウェブサイトには修正版を掲載しております。

WEBサイト: <http://www.cpra.jp/sanzui>
Facebook: <https://www.facebook.com/sanzui.news>
Twitter: @SANZUI_info

発行:公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会
実演家著作隣接権センター(芸団協CPRA)
発行日:2015年9月1日
発行人・編集人:松武秀樹(芸団協常務理事・芸団協CPRA法制広報委員会副委員長)
編集顧問:大笹吉雄(演劇評論家)
編集:芸団協CPRA法制広報委員会SANZUI編集プロジェクトチーム
上野博(音制連)、丸山ひでみ(PRE)、鈴木明文(音事協)、井上滋、君塚陽介、大井優子、小泉美樹(芸団協CPRA)
アートディレクター:新村則人
デザイナー:庭野広祐(新村デザイン事務所)
コピーライター:二藤正和
協力:芸能花伝舎、ブルーノート東京

芸団協・実演家著作隣接権センター(CPRA)とは
CPRAは実演家の権利処理業務を適正に行うための専門機関として、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会(芸団協)と関係団体の協力により1993年に発足しました。レコードやCDを放送で使ったり、レンタルしたりするとき等の権利処理と使用料等の徴収を行い、委任権利者に分配しています。それに留まらず、広く実演芸術の円滑な流通と権利の擁護を目的として幅広い活動を展開しています。 <http://www.cpra.jp>

PICK UP

「美匠熟考」取材こぼれ話

今回ご紹介した寅さんの帽子は「葛飾柴又寅さん記念館」で見ることができます。「くるまや」のセットが移設された館内は、今にも寅さんが現れそう。帽子のほかにも、裏に刺繍の入った上着や、鼻緒が蛇皮でできた雪駄など、実際に使われた衣裳や小道具がたくさん展示されています。帝釈天もすぐ近くなので、「男はつらいよ」の世界を堪能してみても? (葛飾柴又寅さん記念館/開館時間 9:00-17:00、休館日 毎月第3火曜日及び12月第3火・水・木曜、京成柴又駅より徒歩8分)



エピソード募集!

『SANZUI』は創刊より3年目を迎え、これまで、多様なジャンルの実演芸術を取り上げてきました。『SANZUI』をご覧になってのエピソード、これまで知らなかったジャンルの公演に足を運ぶようになった、もっと知りたいと思ったなどなど、ぜひお寄せください。『SANZUI』紙面やウェブサイト等でご紹介させていただいた方には、SANZUIオリジナルグッズをプレゼント。SANZUIウェブサイト (<http://www.cpra.jp/sanzui>) より、たくさんのお便りをお待ちしています!